

## 『臨床哲学のメチエ vol.22』 もくじ

はじめに	2
<b>特集1：ともに考える？「第40回臨床哲学研究会当事者研究と哲学対話」</b>	3
山口弘多郎 「第40回臨床哲学研究会の概要」	6
小泉朝未 「臨床哲学研究会に参加して考えたこと」	30
永山亜樹 「研究会の感想」	33
中西チヨキ 「永山亜樹さんの言葉から」	40
永浜明子 「わたしらしさと障がい受容」	41
佐々木大輔 「当事者研究も、暮らしも、『自分自身で、共に』」	50
<b>特集2：洛星高校での授業「臨床哲学」</b>	63
山本聖人 「洛星と私」	66
荻野亮一 「ひとと会う、外に出る、ともに生きる」	76
川崎晴香 「洛星高校での取り組みについて」	83
小泉朝未 「洛星での実践の経験」	86
<b>それぞれの臨床哲学</b>	90
吉川優希美 「関わり生きていくなかの慰め ——触れ合いから考えるケアのもうひとつのあり方」	91
高原耕平 「ツナミのあとで：タイ南部タクワ・パーでの3ヶ月」	129
中川雅道 「過去——タゴールと鳥」	184
辻明典 「ともに綴る言葉」	189
安谷屋剛夫 「p4c 日記」	197
渡邊陽祐 「対話を通して現れるもう一人のわたし ——フォーコーの「パレーシア」を手がかりに」	211
高原耕平 「かけらをふちどる：フラグメントロジー再考」	270
<b>編集後記</b>	280